

そうじや吉備路マラソン

共存共栄

おかやまマラソン (仮称)



そうじや吉備路マラソンとおかやまマラソン(仮称)の両大会が共存共栄していくことで合意。今後、お互いが協力し合って全国に誇れる大会を目指します。

県

岡山県が計画している「おかやまマラソン(仮称)」と「そうじや吉備路マラソン」について、7月10日、片岡市長が伊原木県知事と県庁で会談。両大会が共存共栄していくことで合意しました。市は両大会が競合し参加者が分散することを懸念し、おかやまマラソンの中止またはそうじや吉備路マラソンとの一本化を県に要請していましたが、両大会の特徴を区分し、より多くのラ

ンナーに喜ばれる大会にしていくと決断しました。

7月18日には、総社市保健センターで県環境文化部スポーツ振興課の職員とそうじや吉備路マラソン推進室の職員が今後の両大会の運営について協議。市長は、「おかやまマラソンの成功のためにも、総社がこれまで積み上げてきたノウハウを活用してもらいたい。全面的にバックアップしていきます」と話しました。協議では、県がおかやま



7月10日に行われた伊原木隆岡山県知事(写真中央)と片岡市長の会談

マラソンの基本構想を説明。フルマラソンと併設の短いコースを合わせて1万5000人規模の大会を目指すことなどが示されました。市は両大会の開催間隔を3か月以上設けるよう要望。県は「要望を踏まえて検討したい」と答えました。また、双方が全国に誇れる大会になるよう協力することが話し合われました。

問い合わせ そうじや吉備路マラソン推進室(☎08375)

天満屋ハピータウン総社駅前店 解体開始

総社の玄関口 駅前が変わる

Change

総 社駅前にある旧天満屋ハピータウン総社駅前店と総社国際ホテルの建物が7月から解体され始めました。解体工事は、周辺住民の生活や環境に配慮しながら12月末まで行われ、平成26年1月に更地の状態になる予定です。

ていました。そしてようやく建物が解体されることになりました。長年待ち望まれていた総

社駅前の活性化。駅前の姿が一変し、明るく元気な総社のまちの玄関口となることが期待されます。

天満屋ハピータウン総社駅前店は、市内初のショッピングセンターとして昭和48年12月にオープン。約22年間営業した後、平成8年2月に閉店しました。

閉店後の建物は利用されることなく、総社駅前の一帯が閑散とした状態に。市は一日も早く活気のある駅前に戻したいとの思いから、建物を所有している株式会社天満屋ストアに働きかけ



解体工事が進む旧天満屋ハピータウン総社駅前店と総社国際ホテルの建物。敷地面積は約4000㎡。天満屋ハピータウン総社駅前店が閉店した後も営業していた総社国際ホテルは、平成18年6月に閉館した

AMDAと合同災害救援ミッション

大雨被害のあった山口市と島根県津和野町に支援物資

大雨の影響で川の増水、氾濫などの被害があった山口市と島根県津和野町にAMDAグループと合同で災害支援活動を実施。7月30日、水やインスタント食品、タオル、土のう袋、ゴム手袋などの救援物資を市職員4人とAMDAグループの看護師が直接現地へ届けました。

山口市とは雪舟サミットの構成市として、津和野町とは全国史跡整備市町村協議会中国地区協議会が縁で支援を決定しました。

また、8月2日には総社市から同市町へ飲料や衣類、まるみ麹本店から寄付のあったフリーズドライみそ汁を運送しました。



7月30日、津和野町の文化センターに支援物資を降ろす市職員